

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800970		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら市川妙典 2Fユニット		
所在地	千葉県市川市塩焼4-14-22		
自己評価作成日	平成22年10月13日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内研修を実施し職員のスキルアップに力を入れている 利用者の生活リズムに合わせて職員が日常生活の支援をしている
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「第2の我が家だと思っただけの安心で安全、笑顔あふれるホーム」を3年後のホームのあるべき姿として掲げ、その目標達成に向けての3カ年計画を明確にして取り組まれている。今年度は、利用者との外出に力を入れて取り組まれているほか、地域行事に関しても自治会長の協力を得ながら、子供会祭り、敬老会、もちつき大会、クリーン作戦等様々な地域行事に参加する機会が増えている。また、防災に対する意識も高く、年2回の総合訓練実施のほか、各ユニットごとに毎月避難訓練が実施されている。事故の予防に向けても「ヒヤリハット報告書」を積極的に提出するなど、安全対策に関し意識高く取り組まれている。「第2の我が家」を目指し、着々と前進している様子がうかがえた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内の研修、事業所内の全体会議にて理念の共有が行えるように支援しているが、実践状況と意思手はまだ不十分である	ホームでは3年後のあるべき姿として、「第2の我が家だと思っただけ、安心して安全、笑顔あふれるホーム」を掲げている。理念達成に向け、毎月、月次運営報告において当月の取り組み課題、前月の振り返りを図り、3年後のあるべき姿に前進している。	ホームが目指す3年後の姿に関し、職員の理解が深まっていくとともに、目標達成に向け、全職員が方向を一つにして取り組める体制が強化されることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧板を閲覧したり、地域行事にも積極的に参加をして地域との交流に努めている	利用者が地域の方と交流できる機会は、地域の餅つき大会やクリーン作戦、近隣小学校での子供会祭りへの参加を通じ交流を深めている。次年度ホームでは、地域交流の充実を年間目標に掲げており、さらなる交流の充実が期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敵い推進会議や家族会を開催し事業所の取組を公表している しかし参加人数が少なく地域後見としての実践状況としては不十分である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のご家族の意見を参考にサービス向上に努めている	運営推進会議は、2か月に一度定期的実施されている。会議にはご家族、地域包括支援センター職員、自治会長が参加し、防災や虐待防止に関する内容のほか、フリートークで今後の取り組み等も話し合われている。	運営推進会議の参加メンバーにおいて、地域の方の参加(地域住民やよく利用する商店の店員など)により、多くの地域情報を収集し、収集した情報が利用者還元されていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要以外連絡、報告をしているところは無く、市町村との協力関係の取り組みとしては不十分である	市の担当者との連携に関しては、積極的な交流とまでは至っていないが、地域包括支援センターには定期的に訪問し、協力関係を築き、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所、法人内の研修で、身体拘束について実施しており、理解は出来ている 玄関の施錠は終日オートロックにて管理。ご家族からは安全管理の上で必要との声もある	身体拘束をしないケアの実現に向け、県の主催する「身体拘束廃止に向けた」研修に管理者が参加をし、ホームユニット会議において各職員へ伝達し、共有化されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所、法人内の研修実施、事業所にてマニュアルを作成し、虐待について各職員に意識するよう努めている		

平成22年度 グループホームきららし市川妙典 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学んでいるが、十分に活用はできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長から説明し、理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や、ホーム入り口に意見箱を設置して反映できるようにしている	ホーム内外の苦情相談窓口に関しては、重要事項説明書内に明記されている。また、家族が意向や要望を表せる機会としては、面会時のほか、年に2回家族会を開催し、家族からの意向の収集に取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、個人面談を定期的に行い、意見を多く聞けるように努力している	職員からの意見収集に関しては、ホーム長が随時、各職員との面談を実施し、意見や要望を聞き取るほか、3か月に一度、ホーム全体での親睦会を開催し、職員間の交流を深めるとともに、職員のストレス回避の場としても機能している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、意見交換を通じ、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の研修については、積極的に参加できているが、法人外の研修には参加が少ない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では交流する機会はあるが、法人外ではあまりできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を伺ったり、汲み取るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来設されたご家族と出来る限り会話をするようにし、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談にて困っている事、必要としている事をアセスメントし、サービス導入に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において利用者主体を最優先している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも外出・援助等支援に参加できる事はお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの利用者全員がホームのある地域の住民ではないので難しいが、地域行事等に参加し、交流を深めるように支援している	馴染みの人や場との関係が途切れないように、郷里にいる知人との交流継続や昔から通い慣れた場所へ外出に出掛けるなど、これまでの交流等が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が意識して、利用者間の係わり合いが持てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も面会に行き、関係を保つように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望・威光を最優先し、個別ケアの実践に努めている	利用者の思いや意向の把握に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時において「センター方式」によるアセスメントを導入し、24時間生活変化シートを活用し、その方のできることに出来ないことを定期的に分析し、本人本位の支援の実現につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の記録に目を通る事により、経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時の血圧測定、検温をし体調の変化に気をつけ、本人の出来る事、できない事を見極め、サービスの提供に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を設け、より良い暮らしが行えるようにしているが、現状計画作成担当者のみが作成している	ケアプランに関しては、アセスメントで抽出した課題を分析したうえで作成される。作成後は担当者会議を開催し、職員からの意見も踏まえ、必要に応じて再作成される。また、職員からの意見のみでなく、本人、家族の意向も踏まえて作成されている。	ケアプラン作成時のアセスメント手順に関し、フロア間で統一を図り、利用者の現状を把握する取り組みがホームとして統一されることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて気づいた事があればサービス担当者会議を開催している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほぼホームの職員でのサービスに限定されており、実践できてない		

平成22年度 グループホームきらら市川妙典 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として自治会のみであり、地域資源の把握状態としてはまだまだである		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医以外を希望される利用者・ご家族はなじみのかかりつけ医に受診している	利用者が適切な医療を受けられるように、月2回往診医による往診を実施している。また、入居前からのかかりつけ医も継続することが可能である。急変時においては、主治医に迅速に連絡する体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きや情報は往診医に相談し、伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医に状態・気付きを伝え、入院措置が必要になった場合は連携し、すぐに対応できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医も交え、ご家族と職員とで話し合いを行い、施設として出来る事を十分に説明し、方針を共有できるよう努めている	重度化や終末期に向けた方針に関しては、契約時において、ホームとしてできることを伝えるほか、重度化を迎えた際には、主治医、家族と連携を図り、利用者にとってふさわしい支援方法を共有していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修にて行っている また、普通救命救急、上級救命救急講習等に自主的に参加をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、身につける努力をしている 地域との協力体制は十分とはいえ、今話し合い少しずつ体制を気付いていけるようにしている	災害対策として平成22年度は4月、10月にホーム全体で避難訓練が開催された。また、各ユニットごと毎月避難訓練を実施するなど、災害に対する意識を高く持っている。その他、備蓄品の管理、AED、階段避難車をホーム内に設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉掛け、接遇を意識した対応を日ごろから心がけている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることの無いように、利用者への声かけに関しては、職員一人ひとりが注意を払っている。また、居室への出入り、利用者宛に届いた郵便物などに関しても不適切な対応にならないよう注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や、自己決定が出来るような環境づくり、声掛け、対応を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員ではないが実践できている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に洋服を選んでもらう等、個別ケアの実践に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮した食事提供を行っている 自分がやりたいという意味を尊重し、参加を促している	食事に関しては、各ユニットにおいて利用者も一緒に準備、後片付けが出来るよう支援されている。食事メニューに関しても利用者の要望を取り入れるほか、外食やホーム庭でのミニ菜園の実施など、利用者と共に行うことで楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・水分量が不足しているときは利用者の嗜好に合わせた食事、水分の提供を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は実施できていない 口腔内の状態把握も不十分である		

平成22年度 グループホームきらら市川妙典 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、個別ケアの実践をしている	利用者一人ひとりの排泄パターンに関しては「生活リズム・パターンシート」に記録し、一人ひとりのパターンに応じ、必要に応じて声かけでトイレ誘導を促し、排泄の失敗等が生じないように取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料の定期摂取と野菜食物繊維等の食事提供に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務が忙しい時間帯には介助が必要な利用者の入浴を行えないのが現状であり、支援としては不十分である	入浴に関しては、一人ひとりの要望に応じて入浴できるよう支援している。入浴拒否者に対しては声かけ方法を工夫するなど、利用者のペースに合わせて対応している。入浴状況に関しては「週間経過一覧表」に個別に記録している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者主体の支援を行えている 起床時間・就寝時間を設けたりせず、個々に合わせた支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬情報をスタッフが閲覧できる場所に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の職歴、得意な事、趣味を活かし役割作りに参加できている しかし全ての利用者に完全には実践できていないのが現状である		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り利用者の希望に沿って散歩等、外出が出来るよう支援しているが、職員が少ない時間帯には対応しきれっていない	外出支援に関しては、缶コーヒーを自販機に毎日買いに出かけたり、晩酌のお酒を近所の酒屋まで買いに出掛けるほか、外出行事として梨狩り、お花見、紅葉見学バラ園散策、水族館への外出等年間行事で定めている。外出の様子等に関してはホームページ内の「日記」で確認ができる。	



平成22年度 グループホームきららし市川妙典 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を使いたい時は希望に応じていつでも使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	IADLの自立度が高い利用者は自分で電話をしているが、その他できていない方もおり、支援としては不十分である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の表情・体調等に合わせ、共用空間が快適に過ごせるよう支援している 共用空間に花を飾り、季節感を取り入れるようにしている	利用者が集う共用空間は、利用者に適した温湿度調整を図るほか、定期的な換気、エアコンのフィルター掃除等こまめに実施し、快適に生活できるよう取り組んでいる。また、トイレや浴室においても清潔さが保たれているほか、廊下等においても歩行の妨げになるものは放置せず、安全面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が利用者の人間関係の把握に努め、利用者同士が居心地の良い空間で過ごせるような支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との連携が不十分な利用者もおり、居室内に自分の使い慣れたものや好みのものがない方もあり、実践状況としては十分とは言えない	居室内においては、これまで使い慣れた私物の持ち込みを可能とするほか、居室内の家具等の配置においても利用者の状態、家族の要望に応じて変更が可能であり、利用者が居心地良く使用できるよう配慮している。	家族より「居室の汚れ」に関する指摘があることから、居室内の掃除方法、または、定期的な確認が強化されることが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー化しており、安全面においては十分な配慮がされている 自立した生活に対する工夫においては活かされておらず、十分とは言えない		